

目 次

所長巻頭言 所長 塚本 正文	1
2023年度社会学研究所活動報告	2
マンガ・ビジュアル研究会 活動報告	4
自転車とツーリズム・まちづくり研究会 活動報告	6
醸造文化と地域振興研究会 活動報告	9
研究員の活動報告	11
研究所寄贈本	28
研究員紹介	30

多くの研究員の皆様に支えられて

社会学研究所所長 塚本 正文

社会学研究所が開設より6年目を迎え、多くの研究員の皆様により、これまで以上に活発な研究活動に繋がっている。具体的な各研究員の活動内容は次ページ以降の紹介をご覧くださいとして、ここでは本年度の研究所全体の動きについて触れたい。これまで当社会学研究所は、大東文化大学の専任教員に向けた研究機関として活動をしてきたが、本年度から規程を改め、多くの研究者の方が当研究所の活動に参加できるようになった。社会学を中心に多くの学問領域の研究者が集まることで、当研究所をハブとして学際研究など横断的な研究がすすみ、今後の新たな知見や手法の発見に繋がるものと期待される。

本年度のセミナーは、11月の改正道路交通法が注目される中で、7月13日に自転車とツーリズム・まちづくり研究会が電動モビリティを話題に取り上げており、実にタイミングの良い時期とテーマで開催できた。また、ユネスコ無形文化遺産として12月に「伝統的酒造り」の記載が決定となったが、その直前の11月16日に醸造文化と地域振興研究会が東京にある酒蔵をテーマに講演会を実施している。このように、本研究所の研究テーマや企画内容が、本年度大きく取り上げられたニュースと重なり、社会の興味や関心のある分野で研究成果を公表でき、実りのある1年であった。

最後に、本研究所に関わるすべての方々の、たゆまぬ研究活動とその成果に敬意を表したい。また、本年度より所長を拝命した慣れない私の仕事ぶりに、運営委員をはじめ多くの研究員の皆様に支えていただいたことへ感謝を申し上げたい。

2024年度 社会学研究所活動報告

運営委員会

- 2024年 4月18日 第1回運営委員会（板橋校舎3号館5階社会学研究所）
7月18日 第2回運営委員会（板橋校舎3号館5階社会学研究所）
10月17日 第3回運営委員会（板橋校舎3号館5階社会学研究所）
2024年 3月6日 第4回運営委員会（板橋校舎3号館5階社会学研究所）

セミナー

シリーズ「日常と非日常の自転車活用」セミナー

「迷走する日本の『電動モビリティ』を検証する」

講演者： 自転車問題評論家 疋田 智

BESV JAPAN 社長 澤山俊明

開催日時： 2024年7月13日(土)16:00~18:00

開催会場： 大東文化会館 K302 研修室

主催： 自転車とツーリズム・まちづくり研究会

講演会

「東京における産業の多様性：醸造業のイノベーション創造と地域振興」

講演テーマ： 「東京港醸造の歴史と未来に繋げる醸造文化」

講演者： 東京港醸造代表取締役・杜氏 寺澤善実氏

開催日時： 2024年11月16日（土）14：30～16：30

開催会場： 板橋キャンパス 3-0113教室

主催： 醸造文化と地域振興に関する研究会

ランチミーティング

第1回ランチミーティング「研究員紹介：私の研究履歴」

2024年5月11日（木）12時40分～13時20分

講師：井島由佳先生

第2回ランチミーティング「研究員紹介：私の研究履歴」

2024年6月13日（木）12時40分～13時20分

講師：柳瀬公先生

第3回ランチミーティング「研究員紹介：私の研究履歴」

2024年7月11日（木）12時40分～13時20分

講師：上西雄太先生

第4回ランチミーティング「研究会報告：Velo-city Conference 2024 参加報告」

2024年10月10日（木）12時40分～13時20分

講師：自転車とツーリズム・まちづくり研究会 飯塚裕介先生

第5回ランチミーティング「研究会報告：伊賀の酒造り」

2024年11月14日12時40分～13時20分

講師：醸造文化と地域振興に関する研究会 中村年春先生、野嶋剛先生、塚本正文先生

第6回ランチミーティング「研究会報告：NHK ドラマ『虎に翼』と法の下での平等」

2024年12月5日(木)12時40分～13時20分

講師：マンガ・ビジュアル研究会 井島由佳先生

研究部会

2024年 5月16日 第1回研究部会

2024年 9月19日 第2回研究部会

2024年 11月14日 第3回研究部会

2025年 3月13日 第4回研究部会（開催予定）

刊行物

2025年3月 『社会学研究所紀要』（第6号）、『社会学研究所所報』（No.6）発行

2024年度 マンガ・ビジュアル研究会 活動報告

所属研究員

井島 由佳（幹事・専任研究員）

スチュワート・ロナルド・ジェフリー（専任研究員）

川野 幸男（専任研究員）

野嶋 剛（専任研究員）

ダレン・マクドナルド（兼担研究員）

佐藤 勇一（専任研究員）

神部 恭久（専任研究員）

上西 雄太（専任研究員）

柳瀬 公（専任研究員）

研究会の開催

前年度ミーティング最終

1月25日 12時15分より オンライン(ZOOM)にて

第1回 本年度の活動について

4月27日 18時00分より オンライン(ZOOM)にて

第2回 研究費・勉強会について

5月24日 18時30分より オンライン(ZOOM)にて

第3回 研究費・勉強会準備について

6月14日 18時45分より オンライン(ZOOM)にて

第4回 研究計画書について

8月1日 及び 8月13日 メール会議にて

勉強会の開催

11月21日 15時00分より

朝ドラ『虎に翼』からDE&Iを考える 講師 尾崎裕和氏 NHK『虎に翼』制作統括

12月21日 13時30分より

視覚文化におけるBLからDE&Iを考える なぜBL研究なのか ジェンダーとセクシュアリティの問題から 講師 堀あきこ氏 関西学院大学社会学部助教

*本勉強会は2024年度社会学研究所調査研究活動助成を受けた事業

研究成果の公表

1、社会学研究所主催・第6回ランチタイムミーティング「勉強会 朝ドラ『虎に翼』からDE&Iを考える」での報告

12月5日 12時40分より13時20分まで 板橋校舎3号館5階ワークスペース1

2、社会学研究所紀要6号にて勉強会報告

スチュワート・ロナルド・ジェフリー 「マンガ・ビジュアル研究会報告書」『社会学研究所紀要』,第6号,pp.115-118,2025.

2024年度 自転車とツーリズム・まちづくり研究会 活動報告

所属研究員

野嶋剛（幹事・専任研究員）

阿部英之助（専任研究員）

飯塚裕介（専任研究員）

塚本正文（専任研究員）

神部恭久（専任研究員）

小野田竜一（専任研究員）

井島由佳（専任研究員）

鶴田佳史（専任研究員）

小湊浩二（専任研究員）

八木原大（専任研究員）

疋田智（客員研究員）

活動目的

社会学の研究分野の一つである観光学、そして、本学科のコースの一つであるまちづくりは、いずれも近年ブームになっている自転車と密接な関係を有しています。サイクルツーリズムや自転車を生かしたまちづくりは一つの大きな社会的潮流になりつつあります。自転車は、健康増進や生きがい発見、脱炭素、SDGsなど現代社会の諸課題の解決にもつながり、日本政府や地方自治体も予算を投じて近年、サイクリング促進のための環境整備に努めている領域です。本研究所のメンバーである研究部員には幸い、自転車をめぐる諸問題に精通した教員が複数在籍しています。その力量を結集しながら、観光やまちづくりに関する社会学的課題と自転車を結びつける研究を深め、本研究所の存在意義をより高めることが期待されます。

研究会の開催

第1回 新年度の活動及び科研費の申請について

3月22日 11時00分より 社会学研究所にて

第2回 走行合宿および科研費の内容の調整について

7月7日 メール会議

第3回 科研費申請の結果報告について

3月1日 メール会議

セミナーおよび研究員の現地調査の実施などについて

第1回 ベルギーでの VELO-CITY の現地調査（飯塚研究員）

6月16日—22日

第2回 房総半島走行環境調査（野嶋、飯塚、塚本研究員）

10月13日—14日 南房総を訪問し、試走したほか、現地のサイクリストにヒアリングを実施

第3回 岩手県遠野市の自転車によるまちづくりを調査（阿部研究員）

2月21日-22日 岩手県遠野市を訪問

第4回 台北サイクルショー調査（野嶋研究員）

3月27日—30 台北で開催された台北サイクルショー2025を調査

*いずれの調査も自転車新文化基金会寄付予算による助成を受けた事業

研究成果の公表

1、セミナー「シリーズ「日常と非日常の自転車活用」セミナー「迷走する日本の『電動モビリティ』を検証する」の開催

11月16日 14時30分より16時30分まで 大東文化会館

2、社会学研究所主催・ランチタイムミーティングで「ベルギー開催の Velo-city 調査」に関する飯塚研究員の報告

10月10日 12時40分より13時20分まで 板橋校舎3号館5階ワークスペース1

3、『シェアサイクル便覧2024』にて台湾のシェアサイクルについて論考の発表

野嶋剛「都市別事例集 台湾のシェアサイクル」『シェアサイクル便覧2024』pp.57-58,2024.

4、社会学研究所紀要にて論文の発表

疋田智・澤山俊明「シリーズ「日常と非日常の自転車活用」セミナー「迷走する日本の『電動モビリティ』を検証する」『社会学研究所紀要』,第6号,2025.

2024年度 醸造文化と地域振興に関する研究会 活動報告

所属研究員

塚本 正文（幹事・専任研究員）

植野 一芳（専任研究員）

野嶋 剛（専任研究員）

山田 敏之（兼任研究員）

中村 年春（客員研究員）

活動目的

本研究会においては、日本各地の伝統的な醸造技術を継承、発展させてきた醸造所の歴史や慣習、醸造技術、醸造文化等について実証的な調査研究を行うとともに、醸造所がそれぞれの地域において産業や経済、生活、祭祀、文化、風習等に与えてきた影響や貢献などについて研究を試みる。

研究会の開催

第1回 本年度の活動について

4月10日 15時30分より 社会学研究所にて

第2回 講演会開催準備確認について

7月7日 17時00分より 調査先（伊賀）にて

第3回 講演会開催準備確認について

11月11日9時30分より オンライン(ZOOM)にて

なお、上記の他に5月20日、6月24日、7月1日、7月7日の実地調査の前後に研究打ち合わせを行い、ヒアリング結果の取りまとめ、講演会開催準備、紀要論文の準備をおこなってきた。

実地調査の実施、調査内容の検討と打合わせ

第1回 東京の酒造りを訪ねて その1

5月20日 15時00分より 東京港醸造株式会社（東京都港区）へ訪問・打合わせ

第2回 東京の酒造りを訪ねて その2

6月24日 14時00分より 豊島屋酒造株式会社（東京都東村山市）へ訪問・打合せ

第3回 東京の酒造りを訪ねて その3

7月 1日 14時00分より 株式会社西仲（東京都八王子市）へ訪問・打合せ

第4回 伊賀（三重県）の酒造りを訪ねて その1

7月8日 10時00分より 合名会社森喜酒造場へ訪問

*この調査は2024年度社会学研究所調査研究活動助成を受けた事業

第5回 伊賀（三重県）の酒造りを訪ねて その2

7月8日 13時00分より株式会社大田酒造へ訪問・打合せ

*この調査は2024年度社会学研究所調査研究活動助成を受けた事業

研究成果の公表

1、社会学研究所主催・第5回ランチタイムミーティング「伊賀の酒造り」での報告

11月14日 12時40分より13時20分まで 板橋校舎3号館5階ワークスペース1

2、講演会「東京における産業の多様性：醸造業のイノベーション創造と地域振興」の開催

11月16日 14時30分より16時30分まで 板橋校舎3号館1階3-0113教室

3、社会学研究所紀要にて論文の発表

山田敏之・野嶋剛・塚本正文・中村年春・植野一芳「伊賀地方の酒造りの特徴と酒蔵のイノベーション-森喜酒造場と大田酒造の事例-」『社会学研究所紀要』,第6号,pp91-103,2025.

研究員の活動報告 (2024年1月～2025年3月)

阿部 英之助

【論文】

- 阿部英之助,「技術・職業教育」『日本の民主教育2023』大月書店,pp.179,pp.181-183,2024.
- 一盛真、阿部英之助ほか5名,『社会教育主事講習の实践と新たな学びの場の展開』「社会教育職員研究」,全国社会教育職員養成研究連絡協議会,(31),pp.9-21,2024年5月
- 阿部英之助,「農業高校はなぜ元気なのか 農から学ぶ農業高校の魅力」『食べもの通信』食べ物通信社,No.648,2025年2月号,pp.24-25
- 阿部英之助,「技術・職業教育」『日本の民主教育2024』大月書店,pp.173-180,2025

【報告】

- 阿部英之助,「高等学校専攻科の現状とその歴史的変遷」
日本職業教育学会・北海道東北地区部会,青森中央学院大学,2024年8月24日
- 阿部英之助,「社会教育主事講習の現状と課題～大東文化大学の事例から～」
全国社会教育職員養成研究連絡協議会,第2回定例研究会,明治大学,2024年12月7日

【活動報告】

- 藤島歴史公園「Hisu花」活用ワークショップ ファシリテーター,6月21日,7月28日,10月27日(オンライン参加),7月28日,9月6日(対面参加)(山形県鶴岡市)
- 神奈川県旭丘高校「第29次旭丘全学教育研究集会」共同研究者,2025年1月24日
- 第5回鶴岡市市政報告会「大東文化大学社会学部による調査活動報告」
(2025年2月8日)(東京都江戸川区)
- 川島町教育委員会「第4回・地域活動センターの設置準備委員会」,
アドバイザー,2025年2月12日(埼玉県比企郡川島町)

【メディア掲載】

- 「藤島のまちづくり提案」(荘内日報2024年3月1日)

【論文】

井島由佳 「BLにおける結婚に関する表象についての一考察－同性婚制度の視点から1－」

『社会学研究所紀要』,5号,pp.47-58,2024.

井島由佳 「暮田マキネの世界－福祉BL 呪縛からの解放－」『社会学研究所紀要』,6号,

pp.51-64,2025.

【書籍】

井島由佳 「『鬼滅の刃』流強い自分の作り方」（中国語簡体字版翻訳書）北京新東方大愚

文化伝播有限公司,2025

【学会発表】

井島由佳 「腐男子が伝えたいBLと商業BLについての一考察～腐男子作家のインタビューを

通して～」日本マンガ学会第23回大会（京都精華大学）2024年6月22日

【企業研修】

井島由佳 「『鬼滅の刃』から学ぶレジリエンス」一般社団法人全国信用組合中央協会 2024年

10月24日

【その他】

社会学研究所主催 第6回ランチタイムミーティング「朝ドラ『虎に翼』からDE&Iを考える」

での勉強会報告

【論文等】

松原聡・竹澤康子・植野一芳・藤井大輔・齊藤由里恵・福田怜生「酒類規制・税制の変更が酒

類の需要構造に与える影響—2003年ビール系飲料の税率改正を中心に—」『経済論集』,第49巻第2号,pp.85-104,2024.

植野一芳・中村年春・山田敏之・塚本正文「[研究ノート]青森酒蔵コラボレーションとは何か

—日本酒醸造の現況、構造転換、地域振興の視点から—」『社会学研究所紀要』,第5号, pp.123-137,2024.

藤井大輔・松原聡・植野一芳「アルコール飲料の消費実態調査」『現代社会総合研究所ワーキ

ングペーパー』,WPS202401,1-27,2024.

藤井大輔・松原聡・植野一芳・竹澤康子「アルコール飲料の消費実態調査」『埼玉学園大学研

究紀要』,第24号,2025.

松原聡・植野一芳・藤井大輔・齊藤由里恵「規制産業としての酒類業と地域振興—日本酒醸造業を中心に—」『現代社会研究』,第22号,2025. (3月刊行予定)

藤井大輔・齊藤由里恵・松原聡・植野一芳「規制産業への政策効果—酒類業の税制・公的規制を中心に—」『公益事業研究』,第76巻第2号,pp.41-53,2025.

松原聡・植野一芳「規制の特例措置の一考察—奄美群島黒糖焼酎関連の規制の変遷から—」『経済論集』,第50巻第2号,pp.1-26,2025.

植野一芳「[研究ノート]黒糖をめぐる奄美群島の歴史と酒造文化」『社会学研究所紀要』,第6号,pp.105-113,2025.

山田敏之・野嶋剛・中村年春・塚本正文・植野一芳「伊賀地方の酒造りの特徴と酒蔵のイノベーション—森喜酒造と大田酒造の事例—」『社会学研究所紀要』,第6号,pp.91-104,2025.

【学会発表】

日本公共政策学会2024年度研究大会 自由公募セッションV (セッション企画)

「規制産業としての酒類業と地域振興」(2024年6月2日、龍谷大学)

司会：松原聡 (東洋大学経済学部教授)

報告者①：齊藤由里恵「酒税の改正と酒類需要」(中京大学経済学部准教授)

報告者②：藤井大輔「酒類業の生産・流通における公的規制」(埼玉学園大学経済経営学部教授)

報告者③：植野一芳「酒類業の振興策と地域」(大東文化大学社会学部教授)

討論者：小澤太郎 (慶應義塾大学名誉教授)

【講演会】

本学社会学研究所・醸造文化と地域振興に関する研究プロジェクト主催

「東京における産業の多様性：醸造業のイノベーション創造と地域振興」講演会

(2024年11月16日 14：30-16：30、本学板橋キャンパス3-0113教室)

講演者：寺澤善実氏 (東京港醸造代表取締役・杜氏)

講演テーマ：「東京港醸造の歴史と未来に繋げる醸造文化」

司会進行：中村年春 (本学名誉教授)

討論者①：山田敏之 (経営学部教授)

討論者②：植野一芳 (社会学部教授)

運営：野嶋剛 (社会学部教授)、塚本正文 (社会学部教授)

小野田 竜一

【学術論文 (査読なし)】

小野田竜一「単純な視覚刺激が感情に与える効果—漫画の背景効果が起こす感情喚起—」『大

【学会発表・研究会発表】

Onoda, R. "Intergroup vicarious retribution caused by prosocial punishment in social dilemmas." the 13th International Conference of Social Dilemmas. Leiden, Nederland. July 1-5, 2024.

小野田竜一「集団間の代理的な報復が生じる罰行動は向社会的罰なのか？：外集団の個人による罰行動の主観的評価の特定」 日本社会心理学会第65回大会 オンデマンド 2024年9月19日-10月3日.

小野田竜一「感情に駆られた利他主義者というシグナル:間接互惠状況における評判ワークショップ：ヒトの協力行動の理解—間接互惠性とその周辺—」 神奈川県,三浦郡 2024年1月20,21日.

表 昭浩

【著書】

表 昭浩『授業力アップの話し方-AI時代の教師のセルフエフィカシー』,幻冬舎,2024年1月31日.

【学術論文】

表 昭浩「大東文化大学社会学部における英語必修プログラムはどのように変わったのか？：2023年度の刷新と課題」,『社会学研究所紀要』第5号,pp.93-109,2024年.

表 昭浩「AI時代のインストラクショナル・スピーチ：英語教師とバイリンガリズム」,『日本教育工学会研究報告集』第1号pp.98-104,2024年.

【発表論文集】

Omote, A. Non-AI, Non-NS Japanese of the English Teacher in Japan: Exploring Instructional Speech in the English Classroom, *Asia TEFL Conference 2023 at Korea Abstract Booklet*, p.399. 2023年8月.

【学術発表】

表 昭浩「AI時代の Instructional Speech」,日本教育工学会研究会,秋田大学手形キャンパス,秋田,2024年,5月11日.

【講演】

表 昭浩「英語を話したいのであれば、私たちの母語、身近な日本語に頼り過ぎないことが重要」,幻冬舎メディアコンサルティング,ゴールドライフオンライン,<https://renaissance-media.jp/articles/-/14977>,2024年,3月17日

香川 めい

【日本語雑誌論文】

香川めい「若年期の就業経歴と恋愛、結婚に関する基礎分析——「家族に関する振り返り調査」を用いた検討」『応用社会学研究』66, pp.127-141, 2024.

香川めい「軌跡を読み解く——系列分析 (Sequence Analysis) の手法と展開 (仮)」『社会と調査』34, pp.74-79, 2025.

【和書・分担執筆】

香川めい・相澤真一「〈高卒当然社会〉の来し方行く末」筒井淳也・相澤真一編『岩波講座社会学11階層・教育』岩波書店, pp.215-232, 2024.

香川めい「入試方法は大学での学びや成果とどう関連しているのか——「年内入試」利用者と「一般入試」利用者の違いに注目して」本田由紀編『文系大学生は専門分野で何を学んでいるのか』ナカニシヤ出版, pp.107-125, 2025

【学会発表】

Kagawa, Mei. "From Career Paths to Marriage Timing: Investigating the Interplay of Regional Mobility in Japan", International Conference MOBILITY IN LIFE COURSE (LIVES & nccr--on the move) (Lausanne University), November 5, 2024.

香川めい「初期キャリアの状況とその後のライフイベント——関連性に変化はあったのか」日本教育社会学会大会第76回大会（信州大学（長野））2024年9月13日.

香川めい・小林盾「系列分析を用いた恋愛から結婚履歴の類型化——家族に関する振り返り調査の分析(2)」第97回日本社会学会大会（京都産業大学（京都））2024年11月9日.

【その他】

香川めい「人びとはいつ働いているのか——「社会生活基本調査」を用いた労働時間のパターン化」シンポジウム 社会科学分野におけるマイクロデータ利用の現状と課題（東京大学山上会館（東京）），2025年2月14日.

加藤 敦也

【研究ノート】

加藤敦也「子どもの権利から競争主義の問題を考える」『武蔵社会学論集 ソシオロジスト』第27巻, pp.167-183, 2025.

上地 宏一

【日本語論文】

上地宏一「国際標準化文字集合に対応した大規模漢字フォントの制作」『大東文化大学社会学研究所紀要』, 第5号, pp.29-44, 2024.

【ワークショップ】

上地宏一「グリフウィキに登録されたIDSおよび異体字グリフの活用について」HNG公開20周年記念連続研究集会「字体史研究と文字情報データベース（第1回）」,オンライン,2025年3月8日

上西 雄太

【洋書】

Kaminishi, Yuta. Co-editor (with Jeff Kyong-McClain). *East Asian Ecocinema: Between Nation and Planet*, Edinburgh: Edinburgh University Press (under contract).

【論文】

Kaminishi, Yuta. “The Ruins of Diasporic Memories: Remembering Iriomote Coal Mine in *Green Jail*,” in *East Asian Ecocinema: Between Nation and Planet*, Edinburgh: Edinburgh University Press (forthcoming) (peer-reviewed).

【学会発表】

Kaminishi, Yuta. “The Landscape of Diasporic Memories: Remembering Iriomote Coal Mine in *Green Jail*,” at East Asian Ecocinema Symposium (University of Idaho, 2/23/2024)

近藤 和都

【分担執筆】

近藤和都「アニメのオーディエンスになること——フローとストックのメディア流通史」永田大輔・松永伸太郎・杉山怜美編『アニメと場所の社会学——文化産業における共通文化の可能性』ナカニシヤ出版, pp. 21-34, 2024.

近藤和都「映画がコンテンツになるとき——一九八〇年代の映像流通の再編成」谷川健司編『戦後映画の生き残り戦略——変革期の一九七〇年代』森話社, pp. 87-110, 2024.

【その他】

近藤和都「《机动战士高达》和（再）放送的文化史」

(https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_28528946) 『『機動戦士ガンダム』と（再）

放送的文化史』大塚英志編『運動としての大衆文化——協働・ファン・文化工作』（水声社, 2021）の中国語訳

佐藤 勇一

【ワークショップ】

畑垂矢子・上江洲律子・木水千里・佐藤勇一「ワークショップ2 アンドレ・マルローの現代性——論集刊行とその後——」『日本フランス語フランス文学会』,33号,pp.5-9,2024.

【翻訳書 (共訳 新装版)】

マーティン・ジェイ著,亀井大輔・神田大輔・青柳雅文・佐藤勇一・小林琢自・田邊正俊訳『うつむく眼 (新装版) :二〇世紀フランス思想における視覚の失墜(叢書・ユニベルシタス)』法政大学出版局,2024.

【その他 (体験授業)】

佐藤勇一「哲学の古典と現代社会のつながり」大東文化大学第一高等学校大学授業体験 (大東文化大学板橋キャンパス),2024年3月18日.

【その他 (研究活動)】

パリ、フランス国立図書館にて未完草稿調査,2024年8月13日~8月22日。メルロ＝ポンティ未刊草稿 NAF27004 (Notes de lecture relatives aux derniers travaux sur Descartes.) の研究、および、フーコーの草稿 NAF28803(3)(Michel Foucault. Archives des années 1940 et 1950)の存在確認およびその一部(TeXte sur Merleau-Ponty)を研究。大東文化大学 大東文化大学特別研究費 (研究助成) の支援を受けた。

スチュワート・ロナルド・ジェフリー

【著書 (共著) 英語】

Phiddian, R. and Stewart, R., “Can Australian Cartoonists Monster the Gods of Asian Politics?” In Nickl, B. and Rolfé, M. (eds.) *Moral Dimensions of Humour: Essays on Humans, Heroes and Monsters*, Tampere University Press (Finland), pp. 44–76, 2024.

Stewart, R., “Newspaper Comic Strips Laughs in Four Panels.” Chapter 2 in Jaqueline Berndt, J. (ed) *The Cambridge Companion to Manga and Anime*. Cambridge University Press (UK), pp.31–43, 2024.

【報告】

スチュワート、「マンガ・ビジュアル研究会報告書」『社会学研究所紀要』第6号、2025年3月、pp.115–118

【学会発表 英語】

Stewart, R., “Groundbreaking Women: Recovering the history of forgotten prewar female mangaka.” Virtual Panel (via ZOOM) “Toward an Expanded Field: Women’s Manga Crossing Boundaries.” Association of

Asian Studies (AAS) 2024 Annual Conference (Seattle, Washington, US), March 1, 2024.

Stewart, R., "Technology & Formal Changes in Early Manga: focus on Kitazawa Rakuten." 15th Annual International Graphic Novel & Comics (IGNC) Conference, University of East Anglia (Norwich, UK) July 10, 2024.

Stewart, R., "Talking Back to the West: Kitazawa Rakuten's Cartoons Projecting Japanese Opinion Abroad in the Early 20th Century." Cartoon Symposium (Australian Research Council (ARC) Research Project: Cartoon Nation: Australian Editorial Cartooning - Past, Present, and Future), State Library of South Australia (Adelaide, Australia), Feb 18, 2025.

【学会基調講演 英語】

Stewart, R., "Keynote Address: Japanese Political Cartooning: A Different Trajectory." 31st Conference of the Australasian Humour Studies Network (AHSN), Theme: "The Evolutions of Humour," Flinders University City Campus (Adelaide, Australia) Feb 19, 2025

ダレン・マクドナルド

【論文】

ダレン・マクドナルド 「日本におけるマンガとダイバーシティ経営—研究枠組みのビジネス社会的背景—」『社会学研究所紀』、大東文化大学社会学研究所、第6巻、3月、pp.65-76、2025.

【会社研修講演】

ダレン・マクドナルド 「日本企業は LGBTQ+ Ally として：ダイバーシティ経営の視点から」、DEI 研究会、一般社団法人 経営倫理実践研究センター (BERC)、東京都港区赤坂東京明産溜池ビル、2024年7月24日.

塚本 正文

【論文】

植野一芳・中村年春・山田敏之・塚本正文 「[研究ノート] 青森酒蔵コラボレーションとは何か—日本酒醸造の現況、構造転換、地域振興の視点から—」『社会学研究所紀要』、第5号、pp.123-137, 2024.

塚本正文 「宿泊税の制度と課題—東京都の観光政策を事例として—」『大東文化大学紀要』、62、pp17-28, 2024.

山田敏之・野嶋剛・中村年春・塚本正文・植野一芳 「伊賀地方の酒造りの特徴と酒蔵のイノベーション—森喜酒造場と大田酒造の事例—」『社会学研究所紀要』、第6号、pp.91-103, 2025.

【研究発表・講演会等】

- (1) 社会学研究所・第5回ランチタイムミーティング「伊賀の酒造り」での研究報告
(2024年11月14日 12時40分より13時20分、本学板橋校舎3号館5階ワークスペース1)
講演者：中村年春、野嶋剛、塚本正文
- (2) 本学社会学研究所・醸造文化と地域振興に関する研究プロジェクト主催
「東京における産業の多様性：醸造業のイノベーション創造と地域振興」講演会
(2024年11月16日 14:30~16:30、本学板橋キャンパス3-0113教室)
講演者：寺澤善実氏（東京港醸造代表取締役・杜氏）
講演テーマ：「東京港醸造の歴史と未来に繋げる醸造文化」
司会進行：中村年春
討論者①：山田敏之 討論者②：植野一芳
運営：野嶋剛、塚本正文

鶴田 佳史

【講演等】

鶴田佳史「受賞者講評」eco検定アワード2024表彰式（東京商工会議所），2024年11月22日。

【その他】

鶴田佳史,2024,「第三者コメント」『THREEHIGHANNUALREPORT OMOU2023』株式会社スリーハイ:33.

仲井 圭二

【学会発表】

- 仲井圭二「小学生向け、川ごみのデジタル教材の作成」、あらかわ学会年次大会2023（北とびあ）、2024年2月12日
- 仲井圭二「複数回の測量データと電子基準点のデータを用いた潮位の長期変動解析」、令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会（東北大学）、2024年9月5日
- 仲井圭二「避難所運営ゲーム HUG を用いた防災知識の普及と今後の課題」、第43回日本自然災害学会学術講演会（千葉大学）、2024年9月19日

【講演】

- 仲井圭二「地震に備える」、八千代市福祉センター（千葉県八千代市）、2024年3月25日
- 仲井圭二「地震に備える」、ホテルプラザ菜の花（千葉市）、2024年5月11日
- 仲井圭二「大地震に備えたい！防災対策講座（常代版）」、常代自治会館（千葉県君津市）、2024年6月23日

仲井圭二「私達は何を取り組むべきか！災害が起きたその時、私達はなにをすべきか！」、令和6年度稲毛区地域ケア会議（Zoom）、2024年6月27日

仲井圭二「大地震に備えたい！防災対策講座～過去の災害に学ぶ～」、あびこ市民プラザ（千葉県我孫子市）、2024年8月29日

仲井圭二「防災セミナー地震と大雨・洪水」、ダイアパレスコート・コート（千葉県流山市）、2024年9月1日

仲井圭二「地震に備える」、島田台総合病院（千葉県八千代市）、2024年9月12日

仲井圭二「地震に備える」、高津新田公会堂（千葉県八千代市）、2025年2月21日

【ワークショップ】

仲井圭二「避難所運営ゲーム HUG 地震新バージョン」、船橋市中央公民館（千葉県船橋市）、2024年3月29日

仲井圭二「令和6年度稲毛区多職種連携会議」、稲毛保健福祉センター（千葉市）、2024年10月1日

仲井圭二「令和6年度稲毛区地域ケア会議」、Zoom、2024年12月20日

仲井圭二「笑うコミュニケーション」、アットビジネスセンター東京（東京都中央区）、2025年1月25日

中野 紀和

【論文】

中野紀和「返礼の回路を生み出す地域の文化資源－被災から13年目の宮城県牡鹿郡女川町－」『大東文化大学紀要<社会科学>』第62号,pp.1-16,2024.

中野紀和「集落の維持と発展を担うのは誰か？－長野県栄村小滝における30代のライフステージの変化と葛藤－」『大東文化大学紀要<社会科学>』第63号,2025年3月

中村 年春

【日本語論文・研究ノート】

山田敏之・野嶋剛・塚本正文・中村年春・植野一芳「伊賀地方の酒造りの特徴と酒蔵のイノベーション－森喜酒造場と大田酒造の事例－」『社会学研究所紀要』第6号、pp.91-103、2025年3月.

植野一芳・中村年春・山田敏之・塚本正文「青森酒蔵コラボレーションとは何か－日本酒醸造の現況、構造転換、地域振興の視点から－」『社会学研究所紀要』第5号、pp.123-137、2024年3月.

【講演】

中村年春「消費者行政この四半世紀の展開と消費者団体訴訟の15年 —消費者志向経営への影響は?—」公益社団法人消費者関連専門家会議西日本支部 9月大阪例会、OMMビル会議室（大阪市中央区）、2024年9月25日.

【その他】

【受賞】

中村年春「令和6年度 消費者支援功労者表彰（内閣府特命担当大臣表彰）」、首相官邸、2024年5月28日.

野嶋 剛

【論文その他】

野嶋剛「150年の節目に台湾出兵・牡丹社事件の意味を問い直す」『交流』9月号,2024

野嶋剛「海外のシェアサイクル事例 台湾（台北／高雄）」『シェアサイクル便覧2024』2024

【外国書】

野嶋剛『台湾超越日本、真的嗎?』時報出版,2024

【発表】

野嶋剛「1874年在恆春半島、三個外國記者目撃了什麼?」牡丹社事件國際講座分享交流會,2024.12

【講演】

野嶋剛「TSMCと台湾をめぐる経済安全保障と地政学～熊本にとってのチャンスとリスク～」くまもとサイバーセキュリティシンポジウム2024,2024.11

疋田 智

【日本語論文】

疋田智・明石達生「道路状況と交通安全対策の特殊性が日本の電動アシスト自転車の技術進化と変容に与えた影響—日・欧・中を比較して」『IFSJ イノベーション融合ジャーナル(日本イノベーション融合学会誌)』第7巻 pp.1-19,2024

疋田智「昭和45年道路交通法改正が日本の自転車交通にもたらした影響についての考察 —日本の自転車事故と海外の事例、各国の法規等を比較して」大東文化大学『社会学研究所紀要』第6号,pp.37-50, 2025年3月

【論文以外の出版物】

「シェアサイクル便覧」刊行において、中国の項（p p 58-59）と、未来展望の項（pp.68-69）の執筆と、全体監修 日本シェアサイクル協会 2024/7/4

疋田智「WEBシリーズ・漂流する自転車行政」プレジデント社 2024/1/15-2025/1/13

<https://president.jp/category/c05479>

疋田智「サンデー特集・変わる道路交通法」監修とコラム執筆 東京新聞大型紙面（2025年2月9日付）

疋田智雑誌連載

『交通安全ジャーナル』の「自転車で出かけよう」東京都交通安全協会・警視庁（月刊・通年）

『サイクルスポーツ』の「天使？悪魔？疋田ハカセの“電動モビリティ”大研究」八重洲出版（月刊・通年）

『モビリティライフ』の「疋田智の晴走雨読」ライジング出版（隔月刊・通年）

『バイシクルクラブ』の「燃えよ！自転車オヤジ」ADDIX（月刊・2024年3月で終了）

【学会発表】

A Study on Safety Perceptions of the Bicycle Riding Space Based on Bicycle Helmet Wearing Rates - Based on Nationwide Questionnaire Survey in Jan. 2024 国際交通安全学会（IATSS）第12回今治大会・ポスターセッション Nov. 2024

Bicycle accidents will not decrease if we don't ensure that children ride on the left side of the road. -The Real Reason of Frequent Bicycle Accidents in Japan 国際自転車安全会議（ICSC）ワークショップ（IATSS内）Nov.2024

【シンポジウム、講演、ワークショップ、メディア出演、他】

疋田智「違法モペッドと電動キックボード、法律違反にならないために」出演解説 東京FM『One Morning』 2024/5/17

疋田智「楽しむための自転車学2024夏」学習院生涯学習センター（さくらアカデミー）2024/5/25～全4回

疋田智「The Meaning of doing two (or more) jobs in the era of "LIFESHIFT" ~ To think about your future "employment".」(英語講演) 宮崎国際大学2024/5/31

疋田智「道交法が変わる・解説」中部日本放送（CBCラジオ）生出演 2024/6/1

疋田智 “Bicycle E-Mobility City EXPO”でメインステージ講演「ナショナルサイクルルート解説」 「青切符についての注意点」「命を守るヘルメット」の全3回 “Bicycle E-Mobility City EXPO”事務局 2024/6/5

疋田智・澤山俊明(ベスビー・ジャパン代表)「迷走する日本の『電動モビリティ』を検証する」大東文化大学社会学研究所 2024/7/13

疋田智「未来をひらくイノベーション（19世紀の自転車の技術革新について）」講演 東京都

市大学2024/7/25

足田智・田中美帆（東京工業大学）「【加賀市×自転車】ペダルでつなぐ持続可能なまちづくり in 加賀～自転車ライフを世代を超えて考える～」基調講演およびワークショップ主催 加賀市・加賀生まれびと交流会 2024/10/5

足田智「『道交法改正と電動モビリティ、世界の自転車が変わる』講演」いわき市・創光オフィス 2024/10/24

足田智「ワークショップ『インバウンド観光客を呼ぶということ』と、富山湾サイクルルート試走およびレポート」富山市・チューリップテレビ 2024/10/28

足田智「酒気帯び運転・ながらスマホ運転、道交法改正で自転車厳罰化」TBSテレビ「ひるおび」スタジオ生出演で解説2024/11/1

足田智「The Effectiveness of Evacuation from Tsunami by Bicycle, Based on Japanese and Foreign Cases」(英語講演) 宮崎国際大学 2024/11/26

都営バスのEV化で「トルコ製小型ノンステップ電気バス e-JEST (KARSAN) 検討会」および試乗とレポート 東京都・アルテック(株)・ライジング出版 2024/2/6

東京サイクルデザイン専門学校・卒業制作審査委員長として、卒業制作展にてグランプリ発表と講評2024/2/22

飯塚 裕介

【論文】

飯塚裕介・小林桃子「避難指示文の指示内容と文末表現の組み合わせが避難行動に及ぼす影響」『都市計画報告集』第23巻4号,pp553-557 2025年

【講演】

飯塚裕介「防災まちづくり講演会：桜台東部地区におけるこれからの防災まちづくり」『防災まちづくりキャラバン』開進第三小学校,2024年3月16日・

飯塚裕介「防災学習：水害への備え」板橋区立新河岸小学校、2025年1月18日。

【コラム】

飯塚裕介「高島平から災害時の食を考える」『高島平学：高島平を思考する地の知』、第9号、2025年3月31日・

【防災教育ツール】

飯塚裕介および社会学演習防災教育チーム「チョイス」,2025年1月・

飯塚裕介および社会学演習II防災教育チーム「【改訂版】避難タイムライントランプ水害編」, 2025年1月・

【国際会議参加および現地調査】

自転車国際会議 Velo-city2024 Ghent (ベルギー), 2024年6月16日~同月22日.

【現地調査】

自転車とツーリズム・まちづくり研究会南房総サイクリング環境ヒアリング・実走調査, 千葉県南房総市および館山市, 2024年10月13日~14日.

【シンポジウム】

「迷走する日本の『電動モビリティ』を検証する」大東文化会館, 2024年7月13日 (企画運営・モデレータ).

【ワークショップ】

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第1回ワークショップ: プロジェクトの概要説明と参加企業の紹介」大東文化大学板橋校舎3号館30108教室, 2024年5月31日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第2回ワークショップ: 現地見学」東京都板橋区高島平団地および周辺地域, 2024年7月5日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第3回ワークショップ: コンセプトおよびロードマップ発表、ニーズの確認」大東文化大学板橋校舎3号館30108教室, 2024年8月2日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第4回ワークショップ: ニーズと各地点の特徴整理、機能の取捨選択とレイアウトの検討」大東文化大学板橋校舎3号館30110教室, 2024年10月3日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第5回ワークショップ: 各地点のコンセプトと空間イメージ発表、利用シーンの想定」大東文化大学板橋校舎3号館30110教室, 2024年12月12日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト第6回ワークショップ: AR表現の検討」大東文化大学板橋校舎3号館30110教室, 2025年1月23日.

「高島平ゆめのまち産学連携プロジェクト発表会」大東文化大学板橋校舎多目的ホール, 2025年3月19日.

「オリジナル防災教育ゲームを用いた防災学習の実践」板橋区立新河岸小学校3年生, 2025年1月18日.

【地域イベントへの出展】

ブース出展「防災を学ぼう」, 『高島平まつり』にオリジナル防災教育ゲーム2種の体験会と災害時に役立つレシビのパネル展示を出展, 会場: 旧高島第七小学校校庭・中庭等, 開催日: 2024年10月27日.

ブース出展「防災を学ぼう」, 高島平地域イベント『#平暮らしキャラバン』にオリジナル防

災教育ゲーム2種の体験会と災害時に役立つレシピのパネル展示を出店，会場：高島平
団地おやまの広場南，開催日2024年12月7日。

【メディア掲載】

「大東大が産学連携プロジェクト」，高島平新聞2024年6月号5面

「産学連携で”まち歩き” 団地内の低未利用地の活用について」，高島平新聞2024年7月号3面

「ゆめのまち」第3回ワークショップ開催」，高島平新聞2024年8月号9面

「産学連携P」4回目のワークショップ」，高島平新聞2024年11月号11面

「大東文化大で産学連携プロジェクト 学生・企業で初のワークショップ」，板橋経済新聞
2024年6月10日 (<https://itabashi.keizai.biz/headline/729/>)

「大東文化大のゼミ生が高島平団地を視察 産学連携プロジェクトの一環で」，板橋経済新聞
2024年7月12日 (<https://itabashi.keizai.biz/headline/756/>)

「大東文化大でまちづくりのワークショップ 学生と企業が連携」，板橋経済新聞2024年8月
9日 (<https://itabashi.keizai.biz/headline/773/>)

「大東文化大で4回目のまちづくりワークショップ 企業・学生団体も視察」，板橋経済新聞
2024年10月11日 (<https://itabashi.keizai.biz/headline/807/>)

「大東文化大でまちづくりワークショップ AR技術の活用も」，板橋経済新聞2024年12月20
日 (<https://itabashi.keizai.biz/headline/855/>)

【その他】

アーバンデザインセンター高島平(UDCTak)ディレクター

板橋区老朽建築物等対策協議会 委員

日本建築学会防災教育 WG 委員

高島平学編集委員会 委員

八木原 大

【論文】

八木原大「第三セクター方式のリゾート開発政策と財政再建－1980年代以降の青森県大鰐町に
おける事例を中心に－」『社会学研究所紀要』,第6号,pp.77-90,2025.

柳瀬 公

【論文】

柳瀬公「効用理論に基づく若者の情報行動」『日本情報ディレトリ学会誌』,第23号 pp.66-73,
2025.

【体験授業】

柳瀬公「SNSの利用は学力を下げるの？」2024年度オープンキャンパス（大東文化大学東松山校舎）2024年8月25日.

【研究報告会 座長】

第27回日本情報ディレクター学会全国大会（アルカディア市ヶ谷），2024年8月31日.

山口 みどり

【研究報告・コメント等】

山口みどり「趣旨説明「国際シンポジウム ジェンダーと身体—「帝国」を再考する」大東文化大学100周年記念シンポジウム（大東文化大学&オンライン）2024年2月17日

山口みどり「コメント 帝国が変わる「美」意識——イギリス史の立場からのコメント」大東文化大学100周年記念シンポジウム（大東文化大学&オンライン）2024年2月17日

山口みどり「宗教がもたらすつながり、支え、そして縛り——アングリカン研究からのコメント」『カトリシズムと生活世界——信仰の近代ヨーロッパ史』（勁草書房、2023年）合評会（明治大学駿河台キャンパス）3月30日

山口みどり「『憧れ』が動かす近代」『フェミニズムズ』×『憧れの感情史』——'新しい女性たち'をめぐる夢と憧れ（東京理科大学&オンライン）2024年2月21日

山口みどり「『論点・ジェンダー史学』を活用する——総論」イギリス女性史研究会第41回研究会（KOBE Co CREATION CENTER & オンライン）2024年6月22日

Midori Yamaguchi (Chair and Comment), "New" Gender Norms? The Female Emperor, Female Hair Removal, and Male Makeup in Modern Japanese Magazines (Panel), The International Federation for Research in Women's History 2024 Conference (Sendagaya Campus, Tsuda University) 9 Aug. 2024.

山口みどり「『論点・ジェンダー史学』を編集して」

【講演】

山口みどり「牧師館の娘たち——ヴィクトリア時代の教会と音楽」聖公会神学院礼拝音楽プログラムⅡ（聖公会神学院）2024年10月12日

山田 敏之

【論文】

山田敏之「個人の創面的行動を促すワーク・エンゲージメント、組織文化の役割」『大東文化大学紀要』, 第62号, pp.345-364, 2024.

山田敏之「イノベーション創造を導く組織文化、個人の双面的行動、双面的リーダーシップ」

調整媒介モデル』『経営論集』,45号,pp.115-132,2024.

山田敏之・福永晶彦・中野千秋「リモートワークの進展と企業倫理の確立：組織の倫理風土、倫理的リーダーシップの役割」『日本経営倫理学会誌』,第31号,pp.141-154,2024.

十川廣國・山崎秀雄・遠藤健哉・山田敏之・周炫宗・横尾陽道「イノベーションを促すマネジメント要因の時系列分析：2014～2022年度のアンケート調査をもとに」『武蔵大学論集』,第71巻,第1,2,3,4号,pp.11-28,2024.

山田敏之「イノベーション創造プロセスの推進と双面的リーダーシップの役割：調整媒介分析による因果経路の解明」『実践経営』,No.61,pp.21-33,2024.

山田敏之「従業員のイノベーション創造、Voice行動を導く高業績ワーク・システム：従業員の双面的行動と双面的リーダーシップの役割」『経営論集』,46号,2025(近刊).

【研究ノート】

植野一芳・中村利春・山田敏之・塚本正文「青森酒造コラボレーションとは何か：日本酒醸造の現況、構造転換、地域振興の視点から」『社会学研究所紀要』,第5号,pp.123-137,2024.

【書籍所収論文】

山田敏之第6章「モチベーション」(pp.78-95)、山田敏之第7章「リーダーシップ」(pp.96-114)
高沢修一・山田敏之(2024)『現代マネジメントの基礎』財経詳報社,2024.

【学会発表】

山田敏之「組織の双面性構築を導く高業績ワーク・システムの役割：ミクロ的基礎づけの視点」実践経営学会関東支部会（Zoomミーティング）,2024年6月15日

	寄贈本	寄贈者
1	SHARE CYCLE HANDBOOK シェアサイクル便覧 一般社団法人日本シェアサイクル協会 2024年	野嶋 剛

研究員紹介

所 長 塚本 正文
部 会 長 豊泉周治
専任研究員 阿部英之助 井島由佳 植野一芳 小野田竜一 表 昭浩 香川めい
川野幸男 上地宏一 上西雄太 小湊浩二 塚本正文 佐藤勇一 神部恭久
スチュワート・ロナルド・ジェフリー 鶴田佳史 豊泉周治 中野紀和
野嶋 剛 飯塚裕介 八木原大 柳瀬公 山口みどり
兼任研究員 山田敏之 ダレン・マクドナルド
兼任研究員 近藤和都 大澤美和 加藤敦也 佐藤剛生 佐藤秀樹 仲井圭二
客員研究員 疋田 智 中村年春 土岐 寛

大東文化大学社会学研究所所報 No.6

2025年3月31日発行

編集発行・印刷 ©大東文化大学社会学研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1

Tel: (03)5399-7394